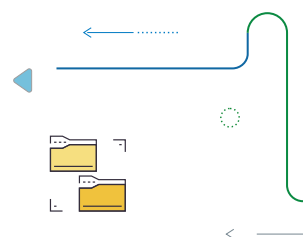


パッチ適用の工数60%削減! サーバー200台のパッチ管理を 自動化するまでの道のり

Gupshup 導入事例



Gupshupとは

月間45億件を超えるメッセージを扱う「Gupshup」は、スマートメッセージング・プラットフォームのパイオニア企業です。オムニチャネル・メッセージングAPI、高度なボット、モバイルマーケティングツールなどの最先端の事業を展開し、世界で3万6000社以上の企業に、SMS、WhatsApp、Facebook Messenger、Twitterなどのチャンネルで魅力的な会話体験を構築することを可能にしてきました。

パッチ管理ツール導入前の課題

2016年4月、Gupshupは、世界初のチャットボット構築プラットフォームの1つである「Gupshup.io」を発表しました。このプラットフォームは、2万5000人を超える開発者が参加しており、Twitter、Facebook Messengerなどの22の異なるチャンネルに3万件のチャットボットを有しています。

事業が大幅に拡大されたことにより、GupshupのITシステムにかかる負荷も格段に大きくなりました。この変化の影響をもろに受けたのは、Gupshupが拠点を構える国の1つである、インドのIT運用管理者です。セキュリティを維持するために200台以上のサーバーにパッチを適用する作業が必要となり、ほかの業務に時間を割くことが難しくなっていました。さらに、管理しているサーバーのアップデートやパッチを手動で適用する前のテスト作業にも、膨大な時間と労力が必要でした。



すべてのサーバーに手動でパッチを当てる手間を削減するために、Gupshupはパッチ管理を自動化できるツールを探し始めました。そこで見つけたものが、IT運用管理ソフトウェアブランドManageEngineのパッチ管理ツール「Patch Manager Plus」です。

GupshupのシニアシステムアナリストであるShraddhesh Rao氏は、GupshupがPatch Manager Plusにたどり着いた経緯について、次のように語っています。「パッチ管理を完全に自動化できるソリューションをインターネットで探していたところ、偶然Patch Manager Plusを見つけました。デモセッションに参加し、Patch Manager Plusを導入することを決めました。」

パッチ管理の自動化

Patch Manager Plusを導入した結果、Gupshupは、サーバーへのパッケージやパッチの適用を自動化することができました。とくに、システムの大部分がLinuxサーバーで構成されている環境においては、Patch Manager PlusはGupshupの大きな助け舟となっています。

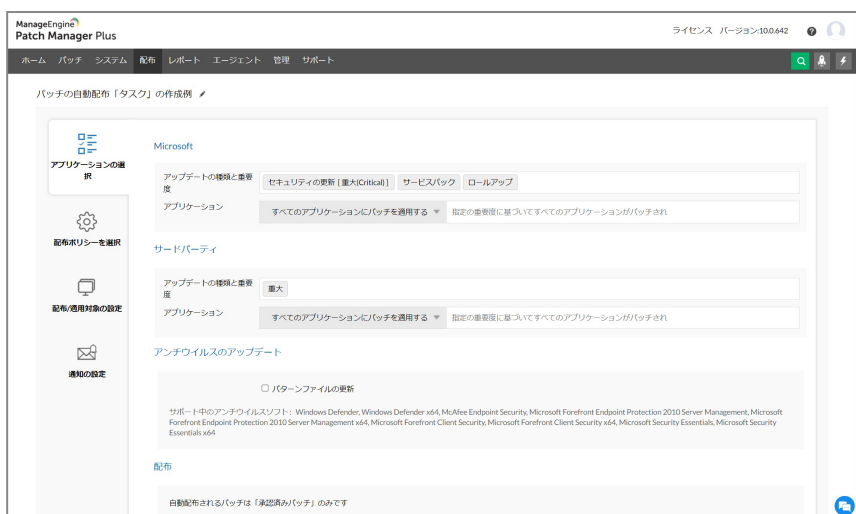
「Patch Manager Plusを導入する前は、各サーバーに行って手動でパッケージをインストールしていました。しかしツール導入後は、パッケージをツール上で検出し、すべてのサーバーにまとめて自動でインストールできるようになりました。」

Gupshup India シニアシステムアナリスト
Shraddhesh Rao氏

Patch Manager Plusの「パッチの自動配布」機能を活用すると、システム管理者は以下を実施することができます。

- Windows、Mac、LinuxなどのOSのセキュリティパッチの自動配布
- 350種類以上のサードパーティ製品のパッチの自動配布

パッチを自動配布するためには「タスク」を作成します。タスクでは、自動配布したいパッチの種類や、配布日時などを設定します。

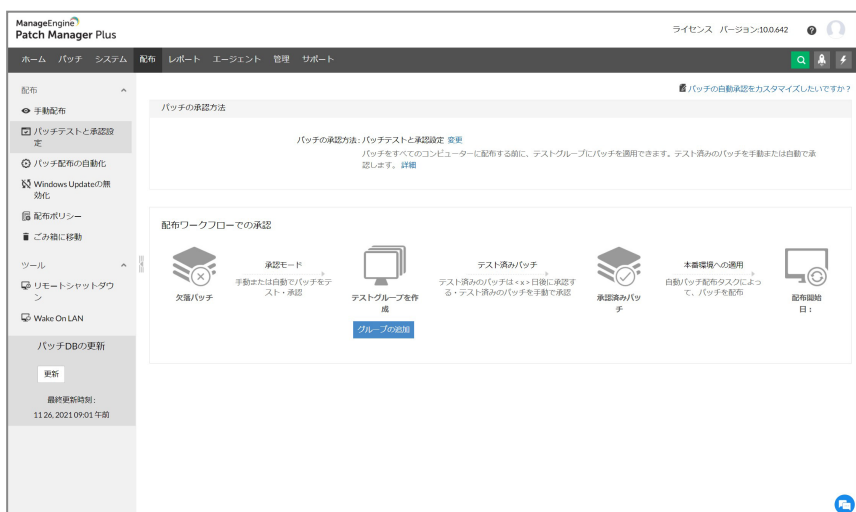


タスクの作成画面

一度タスクを作成すれば、以降はその設定内容にもとづき、管理コンピューターに必要なパッチを自動的に配布することが可能です。

パッチテストの実施

Patch Manager Plusは「パッチテストと承認」機能を搭載しています。リリースされたパッチのテストを実施し、悪影響を及ぼさないことを確認してから本番環境にパッチを適用することが可能です。

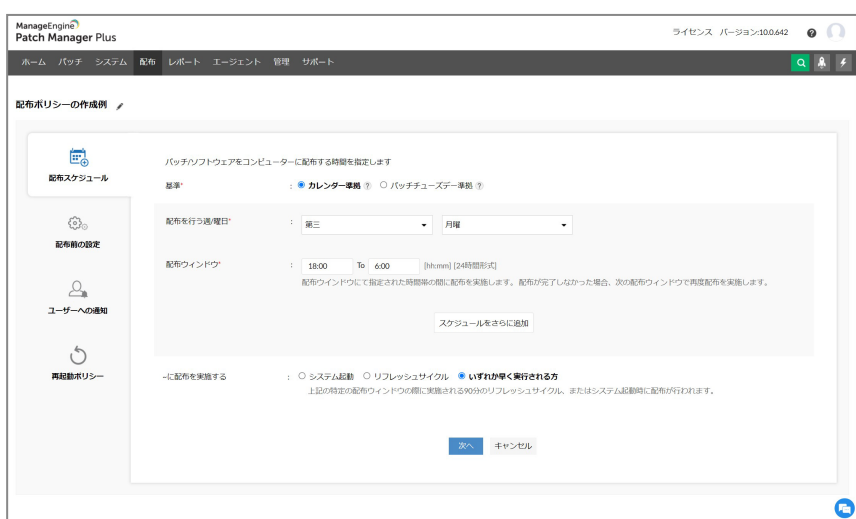


パッチテストと承認機能の設定画面

システム管理者は、あらかじめ作成したパッチテスト用のテストグループにパッチを適用し、問題が発生しないか確認することができます。とくに問題がなければ、パッチのステータスを「承認済み」にします。ステータスが「承認済み」になったパッチは、本番環境のコンピューターに自動的に適用することができます。

柔軟な配布ポリシーの作成

Gupshupの場合、サーバーのパッチ管理をPatch Manager Plusで行っているため、従業員の勤務時間を考慮したパッチ配布を実施することが重要な要件の1つでした。Patch Manager Plusの「配布ポリシー」機能を活用すると、こちらの要件を満たすことが可能です。



配布ポリシーの作成画面

システム管理者は、複数の配布ポリシーを作成し、パッチの配布日時や、パッチ配布後のコンピューターの再起動の有無などを柔軟に設定することができます。また、先述したパッチの自動配布機能と配布ポリシー機能を組み合わせて活用すれば、パッチ管理プロセスをさらに効率化することが可能です。

「Patch Manager Plusの配布ポリシー機能は素晴らしいです。各サーバーの状況に合わせて、パッケージやパッチを適用するタイミングを柔軟に設定することができます。」

Gupshup India シニアシステムアナリスト
Shraddhesh Rao氏

パッチ管理ツールを導入した結果

Patch Manager Plusを導入したことで、Gupshupがエンドポイントのセキュリティを守るために抱えていた負担は軽減されました。Gupshupは、サーバーのパッチ適用にかかる時間を飛躍的に短縮することができたのです。Patch Manager Plusは、機能面に妥協することなくコストパフォーマンスのよい方法で、パッチ管理プロセスの無駄をなくし、手間のかからないパッチ管理を実現します。

「Patch Manager Plusは素晴らしいツールです。私も愛用しています。ツールは常に改善されており、新しい機能が追加されています。」

Gupshup India シニアシステムアナリスト
Shraddhesh Rao氏

パッチ管理ツール「Patch Manager Plus」とは

ゾーホージャパンが提供する「Patch Manager Plus」は、Windows、Mac、Linuxをはじめ、JavaやAdobeなどのサードパーティ製品の脆弱性パッチ管理を圧倒的な低価格で実現するパッチ管理ツールです。クラウド版とオンプレミス版の両方を提供しているため、ご要件に合わせて利用形態を柔軟に選択することができます。

これまでに世界中の何千もの企業が、ITインフラのコスト削減、運用の効率化、生産性の向上、ネットワークの脆弱性対策などをPatch Manager Plusを通して実現してきました。コストパフォーマンスがよく手軽に使い始められるPatch Manager Plusを活用して、あなたもパッチ管理のお悩みを解決しませんか？



Patch Manager Plusの 概要資料

製品の特徴や価格を紹介しています。製品に興味をお持ちいただけただけなら、まずはこちらの資料をお読みください。



Patch Manager Plusの 評価版

30日間無料ですべての機能をお試しいただけます。ゾーホージャパンによる技術サポートも付いています。



オンライン相談

ゾーホージャパンの担当者とWeb会議ツールで個別に話せます。製品デモンストレーションの実施も可能です。

※本記事はグローバル本社の記事を翻訳し、加筆・修正したものです。
原文は[こちら](#)をご参照ください。

ご一読いただき、ありがとうございます。
具体的な費用・お見積りに関しては、下記よりご連絡ください。

ゾーホージャパン株式会社



〒220-0012

神奈川県横浜市西区みなとみらい3-6-1

みなとみらいセンタービル13階



<https://www.manageengine.jp/>



045-319-4612



jp-mesales@zohocorp.com

Copyright ZOHO Japan Corporation. All Rights Reserved.

ZJMR2021121884